

答弁 短期間で基本的な知識を養成するリーダー研修をしているため考えています。

指定文化財の保護と市民力、地域力について

質問 井栗地区4つの文化財の中で、万葉の藤の保護についてどのような支援をしているのか。

答弁 市指定文化財の管理と活用補助をしている。万葉の藤の樹勢回復事業について、管理組合と連携して支援を進めている。



市指定文化財「万葉の藤」

パルム訴訟とまきひろの将来について

質問 訴訟の長期化はまきひろの将来にマイナスとなる。和解協議など早期円満解決の方向を検討しているか。

ているが、最終処分場において三重の防護策を講じて不安の払しょくへ努力する。

質問 風評被害も含め農地に被害があった場合の責任の所在はどこか。受け入れを決めた市長の責任についてどう考えるか。

答弁 震災廃棄物のみならず市政全般の責任は市長に帰結されるものである。また風評被害などの実害の保障は環境省が行う。



試験焼却に向けた震災瓦れきの搬入

不登校解消への取り組みについて

質問 大津市教育長襲撃事件についてその所見はどうか。ごいじめ不登校は密

答弁 外的要因は変化がないので司法の中で粛々と進めていく。1日も早い解決を望むのが本旨である。

三条市教育の現状と課題について

質問 栄北小、井栗小と教職員による深刻な事例が続いた。教育への信頼回復について取り組むか。

答弁 県教育委員会の処分を厳粛に受け止め、子どもたちの今後の対応に努力を続けたい。本校の課題を引き継ぎしっかりと推進したい。

震災瓦れき処理の課題と地元住民の意見について

質問 理解を得るため、責任者自ら頭を下げてお願いする姿勢が必要でないか。焼却灰管理はいつあるのか。

答弁 漠然とした不安には冷静な議論で対応する。飛灰はキレート化した塊をさらにコンクリート化し、整備後の処分場に埋め立てる。

教育行政について

質問 小学生、中学生の長期欠席、不登校が増えているが対策はどうか。また、先進的事例では相模原市立中野中学校でライフスキル教育により学校が改善したがどのように考えるか。

答弁 不登校の現状は、今年1学期で43人である。子どもたちが学校が

楽しみであるよう、指導を工夫するよう学校に働きかけている。今後先進例を指導の参考にしたい。

道路行政について

質問 幹線道路等の維持管理は、適切に行われているのか。

答弁 道路パトロール、自治会の要望等により補修、維持管理に努めている。

質問 堤防の道路部分とりのり面の除草が異なるが、このようなことから

答弁 堤防の肩から1メートルまでは道路管理者、のり面は河川管理者で除草を行う。現地確認を行い善処する。

交通安全対策について



国道403号線(鬼木付近)

対し、お詫びをします」との文書が出されているが、なぜそのような状況になったのか。

答弁 園と保護者の間で十分な意思疎通が得られていないことや、説明不足などから保護者の不安につながった。保護者の皆さんから信頼される保育園への取り組みを。

パルム1裁判について

質問 市長は、裁判所が尋問の必要があると判断された場合、尋問に応ずる考えはあるか。

答弁 裁判官の進めていく裁判には協力していく立場である。

質問 証人尋問で市の担当者は覚書の内容は知っているが、基本的に契約行為が行われていないとの認識であると証言しているが、覚書は契約行為なのか。

答弁 ご指摘をいただいたもの全て係争中の案件に絡むものであり答弁は差し控えたい。

交通安全対策について

質問 三条市には第9次交通安全計画がある。その中で、地域住民から指摘されている危険個所の把握、対策はどのようにしているのか。また、歩行者や最近多くなっている自転車の安全対策について伺いたい。

質問 国道403号は死亡事故が増えている。鬼木自治会長から信号機設置の要望が市に出たが、県の公安委員会にも働きかけるべきだ。

答弁 栄スマートインターチェンジの開通により、交通量の増加が予想される。新潟県に要望する。

震災瓦れきについて

質問 試験焼却の日程が決まった場合の市民への周知はどのようにするのか。

答弁 地元自治会には直接連絡する。議会、報道関係にも知らせる。

質問 県との合意事項のストロンチウムとプルトニウムの検査は県が行うが、2か月後の結果が出てから受け入れるかどうかの判断をすべきではないか。

答弁 検査は必要だと思いが義務事項ではないので結果は待たない。

質問 アスベストの検査を含め労働環境の安全確保はどのようにするのか。

答弁 5市で検討する。また、作業員の個人線量計をつけることを検討している。

質問 清掃センター、最終処分場のどちらも地元が反対しているが三条市の対応はどうか。

答弁 福島新田甲自治会は放射能物質に対する不安感から反対され

答弁 随時現場を確認して安全管理を行っている。地域住民の声もその中に反映させていき、自転車対策や歩行者の安全対策にも努める。

地産地消推進店認定制度について

質問 地産地消推進店の認定について新たな取り組みも始まったようだが、認定状況や成果はどうかになっているのか。

答弁 オリジナルのプレートを配布し、掲げてもらっているが、今年度からフレブルシールを貼った農産物を販売してもらい、販売促進に努めている。

各地域の要望事項の取り組みについて

質問 自治会要望は、要望しても実施してもらえない場合が多く、実施率も20%に満たない状況である。丁寧な説明が必要ではないか。

答弁 要望に応えきれない状況にあることは事実である。財政状況も考慮し、判断基準や事業の評価基準について再検討し、回答も丁寧にした。

